

Bloom
as
a leader.
SINCE 1901
Japan Women's University

図書館だより

目次

イスラーム世界の図書館の過去と現在 ——白杵 陽	1
日本女子大学叢書の紹介 岩田 芳子著『古代における表現の方法』	
——岩田 芳子	2
玄関ホール展示（図書館へのアプローチ）	
——浜口 都紀	3
図書館からのお知らせ	4



昭和55年のキャンパス風景（図書館前）

イスラーム世界の図書館の過去と現在

白杵 陽

1980年代中頃、アラブ世界のヨルダンにある日本大使館に勤務していたことがある。当時はイラン・イラク戦争の最中で、イラク在住の邦人の避難ルートが問題となっていた。イラクの首都バグダードから陸路でヨルダンの首都アンマンまで避難するのがベストだということで、その避難経路の調査に同行したことがあった。アンマンからバグダードまでは約875kmで、大使館の車で砂漠を一気に走った。戦時下のバグダードはフセイン大統領の独裁下にあった。帰路、ラマーディーという都市で、日系大手ゼネコンに勤務している大学時代の知人に遭遇するという驚きもあった。

以来、2003年のイラク戦争を経て、現在に至るまで戦乱が続くバグダードであるが、イスラーム統治下のアッバース朝（750～1517年）ではその都として栄華を極めた。この『アラビアン・ナイト（千夜一夜物語）』の時代の繁栄を知的に象徴したのが「知恵の館」という図書館と天文台を兼ねた研究施設だった。ここには古代ギリシアの哲学や科学などのギリシア語文献が大量に収集され、アラビア語への翻訳という一大事業が行われた（伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』講談社学術文庫、2006年）。ヘレニズム期アレクサンドリアの巨大図書館ムーセイオンにも匹敵した。

イスラーム世界の規模の大きな図書館は数十万巻の写本を所蔵していた。所蔵本は手稿本である写本であり、写本を制作する場所としての機能ももつ場合が多かった。そのため、図書館で働く者には、書写、装飾、製本などの職人もいた。8世紀中頃、唐から製紙法がもたらされて、パピルスや羊皮紙から新たな紙に変わっても、イスラーム世界では依然として写本が主流だったのである。

ヨーロッパ・キリスト教世界では、ルターの宗教改革によってラテン語聖書が世俗語のドイツ語に訳されてゲーテンベルクの活版印刷によって聖書が流通するようになった。しかし、イスラーム世界では19世紀になるまでアラビア文字の活版印刷は盛んにならなかった。東アジアのように木版印刷の発達もなかった。アッラーが預言者ムハンマドに啓示した神聖なるアラビア語を印刷するのは憚られたのであろうか。イスラーム信仰に関わる印刷はずっと忌避されてきたのである。

もちろん、現代イスラーム世界の図書館も20世紀終わりからデジタル化の新たな波に洗われ、「第三の書物革命」の時代に直面している。サイバースペース（サイバースペース）
コンピュータ空間こそがイスラームの真の信仰のあり方をめぐる壮絶な争いの場と化している。ジハードもオンラインで宣言される。イスラーム世界は活版印刷や写植の時期を一気に駆け抜け、DTP（卓上出版）など新たなデジタル革命の時代を迎えている。

岩田芳子著

『古代における表現の方法』（日本女子大学叢書19）

岩田 芳子

本書は、『古事記』『日本書紀』『風土記』『萬葉集』に見られる「もの」の分析をとおして、古代の神話や伝説に見られる表現の方法の一端を探るものである。本書で扱う「もの」の範囲は、人々の生活の中で道具として用いられた「もの」であることを条件とし、そのうち、類似の形状を持つ「杖」「針」「剣刀」「鉤」を各章節で取り上げた。

「もの」の検討から表現の方法を探るとは、どのようなことであるのか。

人々が生活する中で使う「もの」の価値は、ただ道具として用いられることのみには有るのではない。人々がその「もの」の機能や質に見出す意味は、時代や状況に応じて多様に展開する。たとえば、日常生活で使われる道具が、祭祀の場においては特別な意味を持つことなども、珍しい現象ではない。民俗的営為の中で見出される「もの」の、そうした多様な意味は、神話や伝説の基層に広がりを持ちつつゆるぎなく存在している。文学は、民俗的営為における「もの」の意味を反映する。但しそれは、必ずしも直截的になされるのではない。生活の中で道具としてある「もの」が、神話や伝説を構成する一部として、つまり表現の一部として文中に表われるとき、そこには、「もの」の機能や質を文学的に把握するという認識の過程を経た、「もの」に対する理解が見出されると考えられる。「もの」を文脈に即した表現として表わすための手法がそこに存したはずである。ことばに表わされる意味が、如何なる認識の過程を経て、作品において機能しているのか。各作品の神話や伝説を支える述作者の意図を読み解くために、「もの」という視点を持つことは、有効である。

従来、考古学や民俗学では、「もの」そのものの意味が問われてきたが、文学作品に表われる「もの」が文脈の中でどのような表現性を有すか、といった視点は十分に持たれてこなかった。本書は、考古学や民俗学の成果を取り込みつつ、作品の文脈に即して表現の方法を明らかにするものである。

本書の構成は二章からなる。第一章では、「杖」（『常陸国風土記』夜刀神伝承）と「剣刀」（タケミカヅチの神話、ヤマトタケルの伝説、『萬葉集』境部王の歌）を対象とし、「もの」が、その機能や質をとおして表象性を獲得する方法を考察する、五編の論をおさめた。第二章では、「針」（『古事記』三輪山伝説）と「鉤」（『肥前国風土記』弟日姫子譚、神功皇后年魚釣り譚）を対象とし、「もの」の機能や質に類感するあり方とその表現方法について考察する、三編の論をおさめた。

全体をとおして、「杖」「針」「剣刀」「鉤」の機能や質の分析から、古代において「もの」が有した表象性の諸相を浮かび上がらせ、それが神話・伝説の背後にある時代性や地域性、及びその基層にある民俗的営為と深く関与して「もの」に類感し、どのような意味を導き、表現性を獲得するかを検討した。その結果、神話では、神が所有する（或は接する）「もの」の機能と質は、超越的な存在である神の行為を表わす意図と呼応して積極的な表現性が導かれるのに対し、伝説では、人と「もの」との関係は消極的且つ流動的で、「もの」が必要とされる状況や場面に即してその意味を表出させていることを明らかにした。例えば「杖」の場合、それを衝く行為が、神の事蹟として記される神話の場合には、幸いを齎す積極の意味が見出されるが、人の象徴的行為として記される伝説の場合には、災いを遮る消極の意味へと表出方法が変化することが明らかとなった。伝説は、神話的な発想に基づきつつも、神の超越性を有し得ない、人の世の事象を伝えるというその要請の中で、表現を展開させるのである。それはまた例えば、三輪山伝説が、人の世において神の姿を直截に記さない方法、即ち、「針」の縫う機能に蛇体を類感させつつ神の聖なる姿を暗示させるという方法をとることも見られた。このように、「もの」に志向される表現性が神話と伝説とは区別されること、神話から伝説への表現の展開が見られることを示し得た。

また、検討をとおして、表現を思考する前提となる各作品の記述態度についても、その問題が浮き彫りとなった。特に記紀間における叙述方法の相違や『風土記』の地誌としての表現の特徴の問題は、古代の文学表現を考える上での、今後の研究の足掛かりとしたい。（日本文学科助教）

玄関ホール展示（図書館へのアプローチ）

浜口 都紀

「展示は、展示する主題と資料への関心と理解を促すことを目的とする。図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらう機会であり、自主的な学修や研究への案内となる。」（『図書館ハンドブック』第6版補訂2版, 2016）

図書館の入口ホールには、目白は2台、西生田には1台、幅2m弱、奥行1mほどの展示ケースが設置されている。目白の場合、展示ケースの他に壁面にもガラスケースがあり、小さいながらもホール全体で展示を行うことができる。いずれの館でも、展示スペースは入館ゲートの手前に位置しているため、気軽に立ち寄れる立地となっている。

展示については、『図書館だより』でも折々に内容や企画の意図をご紹介してきた。右の表に、目白キャンパスの図書館で行われた1983（昭和58）年以降、昨年までの展示テーマ、図書館だよりへの紹介記事掲載号等をまとめた。（泉会寄贈貴重資料の特別展示は初回のみ掲載）。学科の企画により行われた展示も多く、テーマだけからも、本学ならではの幅の広い内容で資料への興味を高めようという努力が続けられてきた様子がみてとれると思う。

冒頭に引用したとおり、図書館で行う展示は、来館者に特定テーマに関する所蔵資料を紹介し、資料への興味を深めていただくことを目的としている。現在計画中の新しい大学図書館においても、エントランス周辺に展示スペースを設置し、何らかの形で展示が行えるよう要望している。展示が今後も図書館へ皆さんを誘う場として機能していくことを願っている。

機会があればこれ以前に行われていた展示や西生田図書館での展示活動についてもご紹介していきたい。

（図書館課長）

年度	開始	終了	テーマ	紹介記事掲載	備考
S58(1983)	6月30日	12月中旬	世界の博物館		
	10月5日		日本文学の英訳書		
	1月21日		日本の心		
S59(1984)	10月18日	12月21日	成瀬記念館落成記念 成瀬仁蔵先生著作展		
S60(1985)	5月27日	6月22日	クセジュ文庫		
	6月24日	8月26日	軽井沢文学散歩		
	11月21日	12月21日	オーストラリア文学コレクション		
	2月7日	4月19日	資料にみるハレー彗星		
S61(1986)	7月7日	8月27日	軽井沢文学散歩		
S62(1987)	11月5日	12月20日	英米女流作家作品コレクション		
H2(1990)	7月2日	8月27日	軽井沢文学散歩		
	4月5日	4月30日	世界の絵本		
	5月21日	7月2日	外国語に訳された日本文学		
	7月2日	9月14日	星にまつわる世界の神話・伝説		
H3(1991)	10月3日	11月17日	明治期の翻訳文学		
	12月13日	2月2日	旅行・探検・大冒険! その1 雪山編		
	4月16日	5月31日	世界の博物館		
	6月3日	7月3日	異文化を知る その1 朝鮮半島		
H4(1992)	7月5日	9月25日	軽井沢ゆかりの文学者たち		
	11月20日	2月29日	異文化を知る その2 ドイツ		
	4月9日	5月30日	自然科学の名著		理学部開設記念
H5(1993)	6月9日	9月16日	全集と月報		
	10月28日	2月27日	旅行・探検・大冒険! その2 極地探検編		
	4月8日	8月20日	お花見に行こう	No.87	
H8(1996)	9月27日		上代文学	No.97	日本文学科企画
	1月16日		中古文学	No.98	日本文学科企画
H9(1997)	6月4日	7月22日	中古文学		日本文学科企画
	11月18日	3月18日	中世文学		日本文学科企画
H11(1999)	5月31日	7月22日	十八世紀の浄瑠璃正本	No.106	日本文学科 浅野三平先生企画
H12(2000)	3月8日	4月20日	桜楓の源流—日本の美意識を源とする— —日本女子大学図書館蔵本による桜の世界—	No.111	日本文学科企画
H13(2001)	5月22日	10月9日	わたしたちの創る日本文学の教科書	No.112	日本文学科 小川満彦先生企画
	11月13日	3月12日	上代タノ平和文庫創設30周年記念展	No.112	図書館友の会協力
H14(2002)	4月16日	5月17日	わたしたちの創る日本文学の教科書	No.114	日本文学科 小川満彦先生企画
	5月20日	7月26日	森戸文庫	No.115	
	12月16日	5月10日	貴女もなれるか「目白と雑司ヶ谷の達人」!!!	No.116, 117	史学科 伊藤寿和先生企画
H15(2003)	6月16日	9月30日	アフガニスタン	No.118	五女子大学アフガニスタン女子教育支援
	11月11日	5月31日	日本女子大学目白地区建物ウォッチング	No.119	住居学科 鈴木賢次先生企画
H16(2004)	6月7日	7月24日	19世紀イギリスの絵本—本学所蔵コレクションより	No.120	児童学科 百々祐利子先生企画
	8月9日	11月30日	子どもと絵本を楽しむための図書ガイド	No.121	児童学科 百々祐利子先生企画
	1月6日	6月30日	ニュージーランドの絵本と児童文学	No.122	児童学科 百々祐利子先生企画
H17(2005)	6月4日		書くこと—日本女子大学所蔵資料による	No.123	全国国語国文学開催 日本文学科企画
	8月8日	2月10日	オーストラリアの絵本と児童文学	No.124	児童学科 百々祐利子先生企画
H20(2008)	6月10日	8月29日	創立者成瀬仁蔵先生 主要著作・参考文献— 日本女子大学学園事典より	No.132	
	10月6日	12月2日	源氏物語千年紀によせて—国宝源氏物語絵巻 復元図展—	No.133	日本文学科企画
H21(2009)	1月28日	5月16日	春です!旅しませんか?—図書館で旅の魅力 をまるかじり—	No.134	
	12月12日	12月25日	図書館で Christmas 2009		
	3月25日	5月22日	花の宴—春を愛でる—	No.138	
H22(2010)	5月15日		ケルムスコット・プレス版「チョーサー作品 集」		特別展示
	7月31日	10月29日	季節を楽しむ—夏・秋編—		
	11月2日	11月30日	ウィリアム・モリスと書物芸術		英文学科 川端康雄先生協力
H23(2011)	12月11日	12月25日	図書館で Christmas 2010		
	10月25日	12月16日	上代タノ平和文庫創設40周年記念展	No.142	
	2月13日	5月30日	図書館を探検しよう! 2012	No.144	
H24(2012)	6月7日	7月12日	バーン=ジョーンスの芸術	No.145	英文学科 川端康雄先生協力
	12月3日	12月25日	図書館で Christmas 2012!		
	2月13日	3月29日	学生が薦める上代タノ平和文庫の1冊		
H25(2013)	4月4日		図書館を探検しよう! 2013	No.147	4月、以後7~11月、 1~3月に実施
	5月11日		貴重書「源氏物語」		特別展示
	5月15日	7月10日	学生が薦める上代タノ平和文庫の1冊 2013	No.147	
	12月7日	12月25日	図書館で Christmas 2013!		
H26(2014)	4月3日	12月10日	図書館を探検しよう! 2014	No.152	
	5月17日		ケルムスコット・プレス版「チョーサー作品 集」, 「源氏物語」	No.152	特別展示
	12月13日	12月25日	図書館で Christmas 2014!	No.152	
H27(2015)	2月14日	3月30日	上代タノ平和文庫から見る世界		
	4月4日	9月	図書館を探検しよう! 2015		
	9月25日	3月30日	広岡浅子と日本女子大学	No.154	

図書館からのお知らせ

図書館の動きを皆様にご理解いただき、より一層ご利用いただけるよう、2016年4月～2017年3月の取り組みを、下記のとおりご紹介します。今後、さらなるサービス向上に取り組んでまいります。最新情報は図書館ホームページをご覧ください。

日本女子大学図書館サービス向上への取り組み (2016年4月～2017年3月)

<2016年度>

- 館内スタンプラリー2016実施(目白, 4月)
- 利用者複写機へのJASMINE 端末からの出力運用開始(西生田, 4月)
- 利用者スペースの空調設備入替工事(西生田, 4月末～5月初旬)
- 「学生が読みたい本」実施(5月・10月)
- 玄関ホール貴重書特別展示:
ケルムスコット・プレス版「チョーサー作品集」, 「源氏物語」(目白, 5月)
- 「教員が学生に薦める本」募集(6月～通年)
- 泉ラーニング・スペース開所式, 運用開始(西生田, 6月)
- JASMINE-Wireless(西生田)
1階, 3階, 4階に設置(6月)
2階と合わせ, 全フロアで利用可能
JASMINE-Wireless(目白)
2015年度より4階で利用可能
- 玄関ホール展示「『暮しの手帖』とその時代」(目白, 10月～11月)
- 各学科(教員1名)より専門分野の図書館所蔵資料への意見聴取(11月)
- 図書館システム「iLiswave-J V2」バージョンアップ(11月)
OPAC操作性向上等
- 教養特別講義2講義録「日本をみつめるために」へのリンクを図書館ホームページに掲載(3月)

2016年度実施した利用者向け講習会

1年次オリエンテーション<目白・西生田>

館内でスライド上映: 4/5 目白(4/18迄)

23回411名参加

館内見学: 4/5 西生田 自由参加形式239名参加

教員からの依頼等により授業時間内に実施

<目白> 計26回425名参加

児童5回111名 食物1回5名 被服1回2名

英文16回202名 史学2回89名

教養実践演習1回16名

<西生田> 計19回267名参加

現代社会2回35名 社会福祉9回126名

教育5回89名 心理1回9名 文化1回6名

留学生1回2名

図書館主催で実施

<目白>

・新大学院生オリエンテーション 4/14

家政学, 文学, 理学 19名参加

・資料の探し方講習会(4月～6月, 7月以降も個別対応で開催)

基礎, 基礎+応用の2コース 11回29名参加

今後も実施しますので、
ふるってご参加ください

編集後記 巻頭写真は昭和55(1980)年秋のキャンパス風景。かつて、新入生向け図書館オリエンテーションのスライドとして使うために撮影された写真である。40年近く前の光景ではあるが、図書館前だけを切り取ると現在と大きくは変わっていないようにも見える。これから創立120周年のキャンパス統合に向けて、この風景も様変わりしていくことになるだろう。7月の人事異動に伴い、編集委員1名も交代となり、次号からは新メンバーでの活動が始まる。(浜口)